

CQI|IRCA ISO 45001 移行 (migrating) 方針 (POLI/1.0)

2017年11月30日

ISO/FDIS 45001 - 労働安全衛生マネジメントシステム- 要求事項及び利用の手引

本文書は、CQI Policy Directorate が作成し、ISO 45001 の発行及びIRCA 登録OHSAS 監査員/審査員のための新しい規格への移行/乗換 (migration) トレーニング要求事項に対するCQI|IRCA の方針を示すものです。

新しい規格への移行/乗換 (migration) に関する詳細な情報は、IRCA 認定研修機関及びIRCA登録監査員/審査員の方々に直接ご連絡いたします。

本方針に関するお問い合わせは右記までお願いいたします ircajapan@irca.org

序文

間近に迫ったISO 45001 の発行は、おそらくマネジメントシステム規格にとって、2015年の ISO 9001 の改訂と附属書 SL の導入に次ぐ大きな転換点となるものです。

組織は、組織のために働く人々に気を配る責任があります。それは、単に注意義務があるからということではなく、組織の業務運営を円滑に進めるためにも必要不可欠なことです。

2016/17年に、英国だけでも、3,120万就業日が、労働関連の疾病及び職場における負傷のために失われました。このコストは年間に149億ポンドにも達します。もっと重要なのは、130万人もの方々が労働に関連する疾病に苦しみ、137名の方が労災により死亡し、60万件もの負傷事故が発生しているということです。国際労働機関 (ILO) は、世界規模では1日当たり、6,000名の方が労働安全衛生関連の問題で亡くなっているとみています。

したがって、労働安全衛生の国際規格の発行は長く待ち望まれてきました。労働安全衛生に関して世界には国家による手引書がたくさんありますが、OHSAS 18001 だけが世界規模で採用されており、およそ130か国で39の業種の9万の組織で適用されています。

ISO 45001

2013年、ISO PC 283 は、労働安全衛生マネジメントシステムに対応する国際規格を作成することを決定しました。CQI は、国家及びPC レベルでこの規格の策定プロセスに関わっており、マネジメントシステムの専門家及び監査員/審査員にとって、本規格の発行が大きな意味を持つことを確信しています。

2017年11月30日に、ISO/FDIS 45001 が投票のために公開されました。この投票は2018年の1月に締め切れ、同年春にISO 規格として発行の予定です。

ISO 45001 は以下の目的で策定されました：

- 組織が労働安全衛生のパフォーマンスを向上させる
- 労働に起因する負傷及び/または疾病を予防する
- 安全かつ健康的な職場を提供する

CQI は、ISO 45001 という新しい規格策定を担当するISOの委員会である ISO/PC283 の作業グループの作業を密接に追ってきました。したがって、新しい規格の内容のみならず、その背景にある規格の意図についても特別な知見を有しています。

OH&S マネジメントシステムを主導し、管理し、監査する方々は、組織のコンプライアンスを維持するためには、そして、もっと重要なこととして、有効なOH&S マネジメントシステムの恩恵を受けるためには、現行の考え方や作業慣行を見直していく必要があるでしょう。

ISO/FDIS 45001 の内容及びカギとなる特性の概要は、本文書の附属書に記載されています。

ISO 45001 への乗換 (migration)

ISO 45001 はOHSAS 18001を引き継ぐものですが、OHSAS 18001 の改訂や改正ではなく、新しい、別個の規格です。移行する対象としてのISO 規格としての前の版はありませんので、組織はOHSAS 18001 からISO 45001 へ migrate 乗り換えるために3年間の猶予が与えられます。

移行 (transition) と乗換 (migration) と言葉は違いますが、そのプロセスは、ISO 9001:2008からISO 9001:2015 への移行のプロセスと同様のものとなります。

IRCA 登録OHSAS 監査員/審査員の方々に対する移行（乗換）要求事項

IRCAに登録するすべてのOHSAS 監査員/審査員の方は、ご登録のレベルに関係なく、ISO 45001 に照らした監査/審査をする力量があるとして登録を維持するためには、IRCA 認定のISO 45001 移行（乗換）トレーニングを合格修了する必要があります。移行（乗換）トレーニングは、OHSAS 18001/ISO 45001 の3年後の乗換期限、2021年までに終了しなければなりません。

移行（乗換）トレーニングには以下が含まれます：

- 附属書 SL に関する1日のモジュール（モジュール1）
- ISO 45001 に適用される監査/審査技能に関するモジュール（モジュール2）

IRCA 認定 ISO 27001:2013、ISO 9001:2015 もしくは ISO 14001:2015 の移行トレーニングの附属書SLのモジュール、またはIRCA認定 ISO 27001:2013、ISO 9001:2015もしくは ISO 14001:2015 の移行合同トレーニングコースを合格修了している監査員/審査員は附属書SL のモジュールを再度受ける必要はありません。

IRCA は、例外的な状況においてはIRCA 認定コース以外の乗換トレーニングを認めることがありますが、その場合、審査員は、受けたトレーニングがIRCAの乗換トレーニング要求事項を満たしているということを実証できなければなりません。

OHSAS 18001 トレーニングの合格修了証及びOHSAS 18001に照らした審査/監査はISO 45001 審査員の登録の要件としては受け入れられません。

労働安全衛生マネジメントシステムを担当するCQI のメンバーには、CPD として、必要な知識、技能を習得し、理解を深めることを強く推奨します。

ISO/FDIS 45001:2018 - 国際規格を理解する

CQI のテクニカルレポート『ISO/FDIS 45001:2018 - 国際規格を理解する』の内容には、規格の分析、及びOH&S マネジメントシステムの運用を監査する人、監視する人にとって、この規格が意味することが含まれます。

このレポートは、CQI のメンバー及びIRCA の監査員/審査員の方々が新しい規格に対応する手助けする目的で発行されます。新しい規格への対応はできるだけ早く行う必要があります。また、執行役員の方々や役員会の方々に対して、ISO 45001 の意味すること、この規格によって生まれる機会についても述べています。レポートは、2018年1月に発行されるので、CQI 及びIRCA のすべてのメンバーの方々は、これを読まれるよう推奨いたします。

注：本文書は、2018年2月もしくは3月に ISO 45001 が発行されるという現時点の想定に基づいていません。

トレーニング及び登録に関するお問い合わせは下記へ

ircajapan@irca.org

[終わり]

附属書

ISO/FDIS 45001 – 重要点の概要

ISO/FDIS 45001 に見られる重要点の概要は以下となります。

1. 附属書 SL の採用

ISO/FDIS 45001 は附属書SL を採用しています。したがって、上位構造、共通の核となる本文と用語と定義を、最近改訂されたISO マネジメントシステム規格、例えばISO 9001:2015やISO 14001:2015 と共有しています。

これが意味するところは明らかです。共通の構成、内容及びテーマ（例えば、リスクに基づく考え方、プロセスアプローチ、リーダーシップ及びトップマネジメントのコミットメント）をもつことにより、組織が複数のマネジメントシステムを整合させたり、統合したりしやすくなります。

2. リーダーシップと労働者の参加

トップマネジメントは、OH&S マネジメントに説明責任を負っており、リーダーシップとコミットメント両方を示す必要があります。実際に、これが成功のためには必須の要素だと明示されています。

危険源とリスクの洗い出し、及びOH&S マネジメントシステムの確立と運営に協議と労働者の参加が求められるということは、OH&S マネジメントシステムの運用のみならず、OH&S マネジメントシステムの設計レビューや改善へと協議と労働者の参加の範囲が拡大されたということになるでしょう。これはOH&Sマネジメントシステムの成功にとって必須であると考えられています。

3. 管理責任者

「管理責任者」の役割はなくなりましたが、英国など多くの国では、管理責任者の役割は法的要求事項です。すべての管理者は、OH&S へのコミットメントを実証できなければなりません。ISO/FDIS 45001 は職場における事故だけでなく、ストレスといった問題も組織のすべての部署に影響を与え得るとしています。これは任命された管理責任者が必ずしも理解できることではありません。

4. 労働者の定義

トップマネジメントや請負業者も含む、すべてが労働者と分類されます。実施される日常の活動のすべてはリスクの対象であり、請負業者とその労働者がOH&Sマネジメントシステムの要求事項を満たしていることを確認せずに、外部資源を利用することは許されません。請負業者とアウトソース先を選定するときには、OH&S の基準を定め、適用することが、組織の調達プロセスに要求されています。

5. 状況

組織の意思決定や活動に影響を与えたり、影響を受けたり、影響を受ける可能性のある組織や個人といった「利害関係者」（もしくはステークホルダー）の期待を考慮する必要があります。

多くの組織では、新しい品質及び環境マネジメントシステムの移行プロセスにおいて状況や利害関係者の問題にすでに取り組んでいたり、今後取り組むかもしれません。そこで行ったプロセスは、ISO 45001 を実施する際に役立ちます。

6. 適用範囲

システムの適用範囲の境界は、組織の状況により決定され、注意義務を果たすことなくリスクを委託することは受け入れられま

せん。

7. リスクに基づく考え方及びプロセスアプローチ

リスクに基づく考え方とプロセスアプローチの適用は、どちらも規格全体を通して強調されています。これは附属書SL に基づく他のマネジメントシステム規格とも一致しており、OH&Sマネジメントシステムの成功にとって不可欠だと考えられています。

予防処置についての言及はありません。組織は、組織が意図する成果を達成するためのOH&Sマネジメントシステムの能力に影響を与える可能性のあるリスクと機会を決定し、考慮し、必要に応じて対応していることを示さなければなりません。

8. 疾病と負傷を予防する

組織は、負傷と疾病を原因となり得る要因を考慮しなければなりません。これには、身体的な状態だけでなく、精神的、あるいは認知能力の状態も含まれることが明示されています。

疾病と負傷の原因には、その場で引き起こすもの（例えば事故）のほか、有害物質に繰り返し暴露される、あるいはストレス過剰な職場環境といった長年にわたって引き起こすものがあります。

CQI Policy for migrating to ISO 45001

(POLI/1.0)

30 November 2017

ISO/FDIS 45001 - Occupational health and safety management systems - Requirements with guidance for use.

This document has been prepared by the CQI Policy Directorate to describe the position the CQI has adopted regarding the publication of ISO 45001 and migration training requirements for IRCA Certificated OHSAS auditors.

Detailed migration information will be communicated to Approved Training Partners and IRCA Certificated auditors directly.

Enquiries relating to this policy should be directed to awoods@quality.org

Introduction

The imminent publication of ISO 45001 represents a significant shift in management systems standards, arguably second only to the revisions to ISO 9001 in 2015 and the introduction of Annex SL.

An organisation's responsibility for looking after those who work for it extends far beyond simple duty of care: it is crucial to its effective operation.

In 2016/17, in the UK alone, 31.2 million working days were lost due to work-related illness and workplace injury. This equates to an estimated cost of £14.9 billion in one year. More importantly, 1.3 million people suffered from a work-related illness, 137 workers were killed at work and over 600,000 injuries occurred. The International Labour Organisation estimates that globally 6,000 people die as a result of occupational health-related issues every day.

It may, therefore, seem that the publication of an international standard for occupational health and safety is long overdue. While numerous national guidance documents exist, OHSAS 18001 is the only one that has been adopted worldwide, by over 90,000 organisations in nearly 130 countries across 39 different sectors.

ISO 45001

In 2013, ISO PC 283 was established to produce an international standard addressing occupational health and safety management systems. The CQI and its representatives have been involved in the development process at national and PC level and are in no doubt of the significance of the standard to management systems professionals and auditors.

ISO/FDIS 45001 was released for ballot on 30 November 2017. The ballot will close in January 2018, with the ISO standard published in spring of the same year.

ISO 45001 has been developed to:

- enable organisations to improve their occupational health and safety performance
- prevent work-related injury and/or ill health
- provide safe and healthy workplaces.

The CQI has closely followed the work of the working group within ISO/PC283, the ISO Committee responsible for producing the new standard ISO 45001. Accordingly, we have specific insight into both the contents of the new standard and also the intent behind it.

Those leading, managing and auditing OH&S management systems will need to revise their current thinking and work practices in order to maintain organisational compliance, and most importantly, to reap the benefits of an effective OH&S management system.

A summary of the content and key features of ISO/FDIS 45001 is included as an appendix to this statement.

ISO 45001 Migration

While ISO 45001 draws on OHSAS 18001, it is a new and distinct standard not a revision or update. As there is no previous version of the ISO standard to transition from, organisations will have three years to migrate from OHSAS 18001 to ISO 45001.

While the terminology is different, the process will be similar to the process for ISO 9001:2008 – ISO 9001:2015 transition.

Migration requirements for IRCA Certificated OHSAS auditors

All IRCA Certificated OHSAS auditors, irrespective of grade, are required to successfully complete IRCA Certified ISO 45001 Migration Training in order to be certificated as competent to audit against ISO 45001. This must be completed by the end of the three-year OHSAS 18001/ISO 45001 migration period in 2021.

Migration training will include:

- A one-day module covering Annex SL
- A module covering the audit skills applicable to ISO 45001

Auditors who have successfully completed the Annex SL module of IRCA Certified ISO 9001:2015 or ISO 14001:2015 transition training, or IRCA Certified ISO 9001:2015 or ISO 14001:2015 training are not required to retake the Annex SL module.

IRCA will only consider accepting other migration training routes under exceptional

circumstances, and where the auditor can demonstrate this training meets the IRCA migration training requirements.

Certificates of successful completion of OHSAS 18001 training and audits against OHSAS 18001 are not accepted for ISO 45001 auditor certification.

CQI members with responsibility for occupational health and safety management systems are also strongly encouraged, as part of their CPD, to acquire the necessary knowledge, skill and understanding.

ISO/FDIS 45001:2018 - Understanding the International Standard

The CQI report *ISO/FDIS 45001:2018 - Understanding the International Standard* contains an analysis of the standard and commentary on the implications for those who audit or oversee the operation of OH&S management systems.

The report is intended to assist CQI members and IRCA auditors in preparing for the new standard – preparation that should take place as soon as possible. It will also advise executive teams and boards on the implications of and opportunities presented by ISO 45001. It will be published in January 2018 and is recommended reading for all CQI and IRCA members.

Note: This document is based on our current understanding that ISO 45001 will be published in February/March 2018.

Training and membership queries

For training queries, email training@quality.org

For membership queries, email membership@quality.org

[ENDS]

Annex

ISO/FDIS 45001 - Summary of key themes

Here follows a summary of the key themes appearing in ISO/FDIS 45001.

1. Adoption of Annex SL

ISO/FDIS 45001 adopts Annex SL, thus sharing a high-level structure, identical core text, and terms and definitions with recently revised ISO management systems standards, e.g. ISO 9001:2015 and ISO 14001:2015.

The implications of this are significant. The common structure, content and themes (e.g. risk-based thinking, process approach, leadership and top management commitment) will greatly support organisations wishing to align or integrate their management systems.

2. Leadership and worker participation

Top management is accountable for OH&S management and needs to demonstrate both leadership and commitment; indeed, this is explicitly identified as a critical success factor.

Consultation and participation of workers in identifying hazards and risks, and the development and operation of the OH&S management system may extend beyond operating the OH&S management system into its design review and improvement. It is considered essential to the success of the OH&S management system.

3. Management representative

The role of 'management representative' has been removed, although it is a legal requirement in many countries such as the UK. All managers will need to be able to demonstrate their commitment to OH&S. ISO/FDIS 45001 is not just about accidents in the workplace – issues such as stress can affect all parts of the organisation. This is not something the nominated management representative can necessarily take on board.

4. Definition of worker

Everyone is classed as a worker, including top management and contractors. All are subject to risk when undertaking their day-to-day activities and it is not acceptable to use external resources without ensuring that the requirements of its OH&S management system are met by contractors and their workers. The organisation's procurement processes are required to define and apply OH&S criteria for the selection of contractors and outsourcing.

5. Context

The expectations of 'interested parties' (or stakeholders) – those individuals and organisations that can affect, be affected by, or perceive themselves to be affected by, the organisation's decisions or activities – must be considered.

Many organisations will have tackled or will be tackling the issue of context and interested party

issues as part of the transition process to their new quality and environmental management systems. The processes that they have used here should be helpful when implementing ISO 45001.

6. Scope

The boundaries for the system scope are determined by the organisation's context, recognising that it is not acceptable to subcontract your risk without exercising a duty of care.

7. Risk-based thinking and process approach

Risk-based thinking and adopting a process approach are both emphasised throughout the standard. This is consistent with Annex SL management systems standards and considered essential to the success of the OH&S management system.

There is no reference to preventive action. The organisation must show that it has determined, considered and, where necessary, taken action to address any risks and opportunities that may impact the ability of the OH&S management system to deliver its intended outcomes.

8. Preventing ill-health and injury

An organisation must take into account factors with a potential to cause injury and ill health. This explicitly includes the mental and cognitive condition of people, as well as their physical condition.

Causes of ill health and injury can be immediate (e.g. accidents), or long term, such as repeated exposure to harmful substances or a stressful working environment.